

令和5年度 学校関係者評価書

鈴鹿市立天名小学校			
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と目標	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上	<p>①児童の主体性を伸ばし、探究する力(自ら課題を発見し、解決に導いていく力)を育成する。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート4「人の話を聞くときは、相手を見てきちんと聞けますか」90%以上 児童アンケート5「授業中、自分の考えを発表しようとしていますか」90%以上 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート4の結果:93% (昨年度84% 昨年度比:+9%) 児童アンケート5の結果:89% (昨年度75% 昨年度比:+14%) アンケート4・5ともに、ほとんど達成できている。 「聞き名人」「話し名人」を各教室に掲示し、日頃から意識するように声かけをしている成果だと感じる。 全体発表以外にも、ペアやグループでの話し合いを積極的に取り入れてきた成果だと感じる。 授業中、ICT機器を活用することによって、自分の考えを伝えたり、友達のことを聞き合ったりする協働的な学習が広がる。そのような学習活動の中で、自分の考えを発表する機会が増えたのもアンケート5の割合が増加した一因だと考えられる。 今後も引き続き、指導者は児童全員が発言できる機会を設けるとともに、児童が安心して発表できる教室の雰囲気づくりを心がけていきたい。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの結果からも成果は目標達成され良好です。ペアやグループでの話し合いを積極的に取り入れる学習やICTを活用した協働的な学びの工夫の成果だと思ふ。 先生方、学校の取り組みが効果を上げているのがみてとれる。 「めあて」を提示し、「ふりかえり」をしっかり行えた結果が良い結果につながったのではないかと感じる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 低学年のうちからグループ討論を積極的に活用し、子どもたちに話し合いをさせ、判断させる機会を多く与えることが必要かと思ふ。 指導者は児童全員が発言できる機会を設けるとともに児童が安心して発表できる教室の雰囲気づくりの具体的な手段を示してほしい。 自分の考えを頭の中でまとめられないのか、まとめることができても皆の前で発表できないのか、この点の分析を行うことで対応策に繋げていくことが必要である。 	<p>①低学年・中学年・高学年の発達段階に応じて、ペア活動やグループ活動の場面を作り、子どもたちが関わり合いながら、互いに高めあえる集団づくりに努めていきたい。</p> <p>②子どもたちが安心して発表ができる雰囲気づくりのために、教員一人ひとりが以下のことを心がけていきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 発言を否定しない。 発言を一度、受け止める。 子どもの考えをつなげる。(最後まで言えなかった考えなど) <p>②また、児童には、以下のことを年間を通して指導していききたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「聞き名人」「話し名人」 聞き手は、必ず反応をする。 <p>③自分の考えを発表させる場面では、児童の授業中の様子をよく観察して、全員が自分の考えがまとまるまで時間をとったり、自分の考えが書けている児童には発表を促したり、その場に応じて対応していきたい。</p>
	<p>②少人数を活かして一人一人の学習状況を把握し、それに応じたきめ細かな学習指導をする。全教員による全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの自校採点と分析及び学Viva!!セットの活用。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート3「勉強はよく分かりますか」90%以上 教職員アンケート3「あなたには授業がよくわかるように工夫していますか」90%以上 全国学力学習状況調査:正答率全国平均以上 みえスタディ・チェック:正答率県平均以上 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート3の結果:93% 教職員アンケート3の結果:91% 学調(6年)(全国の平均正答率との比較) 国語 +1.8%(-7.2%) 算数 +10.5%(+2.8%) みえスタディ・チェック(県の平均正答率との比較) 5年 国語 58.7%(+7.2%) 算数 88.5%(+31.1%) 理科 58.7%(+7.2%) 4年 国語 70%(+9.8%) 算数 69.2%(+10.4%) 自校採点と分析は全教員で行い、授業改善に生かしている。 学調は、国語・算数ともに、全国の平均正答率よりも上回っている。算数については、10%も上回っている。 昨年度と同様、6年生は教育相談の時間に、全国学力学習状況調査結果を一人ずつ渡し、個々の児童に応じたアドバイスを行った。その際、児童も同紙で明らかになった個々の課題について適切な助言を行うことができた。 4年生・5年生においても、教育相談の時間を設けて、個々の児童に応じた助言を行っている。 児童アンケート3は、昨年度よりも6%増加した。少人数のよさを生かして、ICT機器を活用しながら、より細やかな指導ができていると感じる。 教職員は、ICT機器を効果的に活用しながら、今後も更に授業改善や工夫に取り組んでいきたい。 学調の結果を踏まえて、三重県教育委員会から提供されている学Viva!!セット(ワークシート集)については、長期休業中の宿題等として活用できている。 今後も、本校の研究主題に関わって、国語科の物語文を中心に、学調の分析から見えてきた弱み「根拠となる心情や行動を本文から見つけて、それを基にして登場人物の気持ちを読み取る」活動を積極的に授業に取り入れていきたい。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国学力学習状況調査・みえスタディ・チェックの結果を見るとどの評価指標も昨年度を上回っており、学力向上の取組に成果が出ているという評価ができる。 昨年判明した弱みを意識して、指導をさせていただいた結果が出たと見え、先生方の努力を感じる。 6, 5, 4年生に対して教育相談の時間を設けて、個々の児童に応じた助言は学力向上にとって有効な指導であると思ふ。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業改善、工夫は具体的にどのようにするのか具体的に示してほしい。 少人数の良さを生かした指導ができているとのことだが、更に一人ひとりの良さを引き出すような対応が欲しい。 	<p>①学調の分析を通して授業改善として、学年に応じて、弱みと思われる単元や類似問題が出てきた際に、それを克服できるような授業が展開できるように授業の流れを考えていくことを心掛けた。</p> <p>①子ども自身にも弱みや課題を知らせて意識させて問題に取り組ませたり、弱みとして分析された内容に関しては、該当学年でプリント等を活用したりして、問題に慣れさせる。</p> <p>②一人ひとりの良さを引き出すような対応について、ICT機器を活用しながら、よりよい方法はないか、職員で話し合っ、取り組んでいきたい。</p>
	<p>③家庭と協力して家庭学習の習慣を定着させ、基礎学力の向上を図る。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート12「平日家で1日当たりどれくらいの時間勉強しますか」勉強時間1・2年生30分以上、3・4年生45分以上、5・6年生1時間以上 90%以上 児童アンケート14「平日家で1日当たりどれくらいの時間読書しますか」読書10分以上 90%以上 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート12の結果:1・2年生が80%、3・4年生が74%、5・6年生が40% 平日の学習時間についてはどの学年も目標時間を達成できている児童は少ない。また学年が上がるにつれて達成の割合は低くなっている。 各学年の勉強時間を児童自身に意識させ、学年に応じた勉強時間を確実に定着させる必要がある。宿題が終わってから余った時間で自主学習を進めるなど、学習時間を有意義なものにしていきたい。 昨年度に引き続き、青少年育成委員会に作成していただいた「家庭学習チェックシート」の取り組みを継続して行っている。学校だよりで達成者を載せたり、全校集会で表彰の場を設けたりすることで、他の児童の励みになっている。 児童アンケート14の結果:60% (昨年度56% 昨年度比:+4%) 日常の様子も鑑み、読書に親しむ機会を増やすために、2学期から、1回の図書の本の貸し出し冊数を1冊から2冊に変更した。その結果、貸出冊数は大幅に伸びた。 ノーメディアウィークの期間に親子読書の時間を呼びかけているが、期間以外でも学校だより等で家で読書を積極的に呼びかけていく必要がある。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 青少年育成部会で作成してもらったチェックシートで効果が出たのはすごい。バージョンアップ版を検討しても良いのでは。 貸出し冊数を2冊に変更したのはとても良いと思ふ。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①児童が家庭学習の重要性を感じ、実行するような取り組みが必要ではないかと思ふ。 ①いかに家庭を巻き込んだ活動にするか取り上げていくべき。 ①ノーメディアウィークは親も一緒に取り組む必要があるのではないかと感じる。 ②学習ではないが、朝のあいさつや日中、道で出会った時に、児童から先に声を出してあいさつする習慣が薄れてきているように感じる。 ③5, 6年生の指標がかなり下回っているの、その原因について詳細な分析と対策を講じる必要があると思ふ。 ④読書は具体的にしっかりと目標を立てる方が良いと思ふ。例えば、1ヶ月何冊読むなど。 	<p>①小学1年生の入学時に配付する「天栄中校区家庭学習のびき」を必要に応じてノーメディアウィーク期間などに全校に配付し、家庭学習の重要性を子どもたちに知らせ、無理なく自分から進んで家庭学習に取り組むことができるようにする。</p> <p>②「自分からあいさつすること」について、全校集会の場や各学級で指導するとともに、その場で、個人的に児童に声掛けをしていく。</p> <p>③高学年の平日の学習時間が大きく下回っていることについて、高学年になっていきなり1時間以上取り組むことは難しいため、低学年で30分・中学年で45分を確実に取り組むことができるように、各学年で指導していく。</p> <p>④読書活動について、授業の1つとして図書室を活用したり、委員会による「図書館祭り」「図書委員おすすめの本の紹介」を行ったり、学校図書巡回指導員とも連携し、図書室の環境の整備をしたりすることで1冊でも多く本を読んでもらえるようにしていく。</p>

評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
ICTの活用	<p>①授業において、「授業力UP5★」に基づき学習のねらいを達成するための手段として、効果的な活用場面を設定する。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート10、保護者アンケート10「あなたは(お子さんは)パソコンやプロジェクターを使った勉強は、好きですか」90%以上 教職員アンケート10「あなたはICT機器を効果的に活用した学習を心掛けていますか」90%以上 児童、保護者、教職員アンケート11「パソコンやプロジェクターなどを使った勉強は、大事だと思いますか」90%以上 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート10結果 児童94% 保護者94% 教職員100% アンケート11結果 児童98% 保護者94% 教職員92% 教職員アンケート10では、ICT校内研修会を行ったことで様々なICT機器の効果的な活用方法を知り、学習につなげることができたと考えられる。 児童・保護者アンケート10の結果から、ICT機器を活用することが好きという児童が多いことがわかる。今後も学習に対して子どもの意欲が高まるようなICT機器の活用をしていきたい。 児童・保護者・教職員アンケート11の結果から、ICT機器を使った学習が重要と考える児童・保護者・教職員が多いことがわかる。教職員は必要に応じて活用させるとともに、子ども自身が必要に応じてICT機器の活用方法を考える場面もつくってきたい。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器の活用が図られ、浸透していることが伝わり評価できる。 子どもたちの対応、上手な活用に驚いています。 <p>【課題】</p> <p>①ICTに習熟することは子ども達の生活に必要不可欠と考えられる。積極的な活用場面をどんどん増やし活用して欲しい。</p> <p>②パソコン等を使ってこんな事をした、活用をした、こんな場面で活用し、好評であったなどで評価すると良いと思う。</p>	<p>①ICT機器を活用する場面を積極的に増やしていくために、今後もICT支援員との連携を図り、教員のICT機器活用能力を向上させていく。</p> <p>②ICTを活用した実践を教員間で交流し、よかった取り組みを「ICTの活用」の評価にも取り入れていく。</p>
	<p>②児童の端末持ち帰り</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 4年生以上は日常的に持ち帰り活用させる。 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 4年生以上は日常的に持ち帰らせ、活用することができた。(ほぼ毎日) 3年生でも、週1回持ち帰らせ、活用することができた。 活用する内容が、端末を持って帰るほどの有意義な内容になっていたのは検討していかないといけない。(3年:音読の録音、4年:NHK for school視聴・翌日の予定配信、5年:音読の録音・オクリンクで復習・翌日の予定配信6年:オクリンクで復習(計算・漢字)) 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常的に取り組みされており評価できる。 <p>【課題】</p> <p>①1, 2年生の現状も教えてほしい。</p> <p>②学習内容とのバランス、先生方の負担も検討して欲しい。</p> <p>③家庭に持ち帰った際の使用上のトラブルについては課題や問題点は発生していないか。</p>	<p>①1年生 日常的な持ち帰り:なし 長期休業持ち帰り:あり 学校での使用頻度:週2~3日 内容:ドリルパーク・オクリンク・音読の撮影</p> <p>②2年生 日常的な持ち帰り:なし 長期休業持ち帰り:あり 学校での使用頻度:週3~5日 内容:オクリンク</p> <p>③持ち帰った際の使用上のトラブルについては、機器の故障はほとんどないが、学習目的以外の使用があると聞いている。使用上の注意点を学校でも再確認する。</p>
	<p>③ICT校内研修会の実施</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間8回 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT支援員から「オクリンク」「kahoot!」「canva」「clipchamp」「padlet」について研修を行ってもらった。 教員の端末活用能力が上がった。差が少なくなった。 研修で教えてもらったことを授業に取り入れることで、子どもたちも楽しく、関心を持って学習に取り組めることができた。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年8回の研修会実施は大変だと思うが、評価できる。日常的に取り組まれており評価できる。 研修会を行うことで、教員の差が少なくなった事は良いことだと思う。 <p>【課題】</p> <p>①研修会の目的を明確にしたうえで、研修会の有効性を問う必要がある。</p>	<p>①今後もICT支援員との連携を図り、目的を明確にした上で、教員のICT機器活用能力を向上させていく。</p>
不登校(生徒指導)	<p>①不登校を生まない、いじめのない学校・学級づくり 自尊感情・自己肯定感を高める取り組みの推進</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート6「学校で友達と仲良くしていますか」95%以上 保護者アンケート6「お子さんは毎日楽しく学校へ行っていますか」95%以上 児童アンケート1「自分には良いところがあると思う」80%以上 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート6の結果:100% 保護者アンケート6の結果:98% 児童アンケート1の結果89%(昨年度76% 昨年度比:+13%) 本校では11月末時点で不登校(30日以上欠席)児童はいない。 各学級にて日ごろからいじめを生まない学級づくり、いじめを許さない学級づくりを行い、いじめの未然防止に努め、誰もが安心できる学級づくりに取り組むことができた。 ピンキョウ運動やいじめ防止川柳等の学校全体でもいじめを許さない学校づくり、安心できる居場所づくりに取り組むことができた。 教師が児童のよさを認め、ほめる指導をしたり、児童同士がお互いの良さを認め合える取り組みを行うことで、自己肯定感を育むことができた。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不登校、いじめは、どこの学校でいつ起こしても不思議ではない。また増加傾向にあると言われる中、現在、不登校児童はいない、児童アンケート6「学校で友達と仲良くしていますか」100%という結果は素晴らしい。 自己肯定感も昨年度より大幅アップしており評価できる。 安心できる居場所がある学校になっていると思う。 <p>【課題】</p> <p>①アンケート結果には出てこない繊細な部分があると思うので引き続き、先生と児童が話しやすい環境の維持に努めてほしい。</p>	<p>①今後も学校全体で児童を見守っていき、いじめや不登校を生まない学校・学級づくりを行っていく。</p> <p>①児童の良さを教員が積極的に認め、ほめることを大事にしていったり、道徳の授業等を活用して自己肯定感を育む取り組みを行っていく。</p>
	<p>②いじめアンケートの実施と教育相談の充実。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートを年間3回実施し、その後教育相談を行う。 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学期に1回、年間3回いじめアンケートを実施。(3学期は1月実施予定) アンケート実施後、「先生とおしゃべりタイム」として各担任が学級の全児童と面談を行った。いじめの有無だけでなく、生活面や学習面等様々な話をすることで困りごとの把握や解消をし、安心して学校生活を送れるよう取り組んだ。 全職員で全児童を見守り、職員会議や打ち合わせの機会だけでなく、職員同士の日常の会話で児童の情報を交換し共有することで、児童の実態を把握し、対応することができた。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不登校(生徒指導)の取組は評価できる。今後も小規模校の特色を生かして、普段から全児童について全教職員で見守り、情報交換することで早期発見・早期対応に努めていきたい。 開かれた学校、教職員同士が相談できる子どもを中心とした学校の雰囲気を作られているとわかる。 	<p>・今後も児童との関わりを大事にしながら、教職員同士での情報交換を密にし、いじめの未然防止・早期発見に努めていきたい。</p>

評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
地域連携	<p>①協働型コミュニティスクールの推進。学校が抱える課題に対して、学校・保護者・地域がそれぞれの立場から主体的に課題解決に向けた取り組みを進める。</p> <p>【評価指標】 ・協働型コミュニティスクールの理念仕組みについての説明を行う1回以上 ・学校再編に向けた準備を行う</p> <p>【成果と課題】 ・学校運営協議会やPTA委員会、青少年育成部会等で機会があるごとに協働型コミュニティスクールについての説明を行った。 ・学校再編については、青少年育成部会の次期地域計画に反映するように進めている。</p>	<p>【成果】 ・協働型コミュニティスクールの理念などについて学校側から説明を受ける機会があり、徐々に地域に浸透してきていると感じる。 ・協働型については仕組み、理念の説明があり、理解はできるが、実行されているのか。連携は十分とられているので、それで十分と思う。</p> <p>【課題】 ①学校再編に向けた準備を行うは、具体的にどのような準備を進めるのか。 ②学校再編に対する取り組みについては賛成と反対意見があるので、慎重に準備をお願いしたい。</p>	<p>①②学校再編については、鈴鹿市教育委員会の学校再編計画に基づいて準備委員会を設置し準備を進めていく。</p> <p>①中学校区の子どもたちの交流が図れるように地域とできることを青少年育成部会で検討していく。</p>
	<p>②ふるさと先生を積極的に活用した教育活動を行う。</p> <p>【評価指標】 ・保護者アンケート「地域と連携した体験活動は、お子さんにとってよい学習になっていますか」90%以上</p> <p>【成果と課題】 ・保護者アンケート結果:100% ・米つくりやサツマイモ栽培では今年度もふるさと先生に大変お世話になりました。子どもたちにとって貴重な体験学習になっている。 ・ふなまふれあいフェアでは、ふるさと先生に出席授業をしていただき学年に応じた学習活動ができた。 ・夏休みに愛エンジェル隊学習会を設け中学生に小学生を教えてもらう機会を作った。</p>	<p>【成果】 ・学校・保護者・地域は十分連携し、取り組みされていると思います。まだまだふるさと先生の活躍できる場面はあると思う。 ・ふるさと先生の活用に関わる保護者アンケートの結果が100%というは素晴らしい。長年の学校と地域の連携の成果であると思う。 ・地域コーディネーターがよく動いていただき人選や調整、準備などに力を発揮していただいているのも大きいと思う。 ・愛エンジェル隊学習会は中学生にとっても好評、更に活動をもう少し工夫して楽しめる機会を継続してほしい。</p>	<p>・2年後の新たな学校においてふるさと先生を活用した教育活動をどのようにしていくのか検討していく。</p>
	<p>③学校からの情報発信を積極的に行う。</p> <p>【評価指標】 ・学校便りの発行 月2回以上 ・学校ホームページの更新 毎日 ・保護者アンケート「学校は、通信、ホームページ、メール配信などで、情報を家庭へ積極的に提供していると思いますか」90%以上</p> <p>【成果と課題】 ・学校便り発行回数 20回(11月末時点) ・学校ホームページ更新 ほほ毎日更新できている。 ・保護者アンケート結果:94% ・拡大しカラー印刷をした学校便りを、御園と徳田のふれあい会館、天名公民館に掲示し、地域の方に読んでいただきやすくなった。</p>	<p>【成果】 ・学校だよりを回覧したり、公民館等に掲示したり、ホームページ、メール配信等により細やかに情報発信に努めていただいている。 ・学校だよりに掲載を見るのを楽しみにしているという高齢の方もみえるようです。また、カラーで拡大した学校だよりをふれあい会館、公民館に掲示する取組も評価できる。立ち止まって読んでみえる地域の方も目にすることももあり、継続してほしい。</p>	<p>・学校再編に向け、合川小や郡山小の活動の様子も地域の方に知ってもらう工夫をしていく。</p>
人権教育	<p>①仲間づくり・途切れない指導に取り組む。</p> <p>【評価指標】人権レポート研修 年間2回</p> <p>【成果と課題】 ・人権作文、人権ポスターに取り組み、仲間づくりについて考える機会を持った。 ・人権レポート研修では、指導の振り返りができた。 ・職員全体で情報の共有や今後の指導の在り方について考え合うことができた。</p>	<p>【成果】 ・不登校やいじめのない学校づくりの取組と関わって今後も学校全体、全教職員で人権教育の取組を継続、推進してほしい。 ・結果として、いじめのない学校ができあがっている。施策の有効性を評価する。</p>	<p>・今後も教職員同士が連携し情報共有を常に取り合い、子どもの指導に取り組めるようにしていく。 ・指導者が児童の手本となるように人権感覚を常に磨き、研修を重ねていく。 ・人権研修を通して、常に指導方法を見直すとともに、指導力の向上を目指していく。</p>
	<p>②縦割り班活動を通じて異学年交流を行う。</p> <p>【評価指標】 ・代表委員主催のなかよし集いを年に1回実施する。 ・代表委員主催のふれあい遊びを週に1回実施する。</p> <p>【成果と課題】 ・なかよし集いは、チーム制の遊びを実施したことで、上級生が下級生に遊びのコツを伝えたり仲間の分を挽回しようと助け合ったりする姿がみられた。 ・ふれあい遊びは、代表委員が全校児童に楽しんでもらえるような遊びやルールを考えて企画運営することができた。他の児童から、遊びの感想や改善点などを代表委員に伝え、ともに楽しい遊びにしよう、学年問わず考えを伝え合う姿がみられた。</p>	<p>【成果】 ・縦割り班活動や異学年交流の取組は、大変良い経験で評価できるので、子どもたちの声や意見も取り入れて、今後も継続し、自主性や意欲を育んでほしい。</p> <p>【課題】 ①ふれあい遊びの実施のように、なかよし集会の実施回数は増やせないのか。</p>	<p>①なかよし集いは、代表委員にも全校児童にも好評だった。実施回数については、委員会活動の内容を精査して2～3学期中に1回増やせるかどうかを検討する。</p> <p>①ふれあい遊びは、今後も代表委員だけでなく他学年の意見を取り入れ、全校児童が楽しめる活動にしていきたい。</p>
	<p>③校区連携の充実を図る。</p> <p>【評価指標】 ・6年生全員参加の校区人権フォーラムの実施 ・5年生の四校交流会の実施 ・オンラインを用いた他校との交流会の実施</p> <p>【成果と課題】 ・2年生は2学期に3回、郡山小学校2年生とオンライン交流会を行った。自己紹介や好きなものなどについてお互いに自己紹介をした後、しりとりや質問タイム等の時間を作り、校区での連携を深めることができた。 ・栄・合川・郡山・天名の4校の5年生で鈴鹿スポーツガーデンで4校交流会を実施した。内容としては学校紹介をはじめに行い、その後は運動や合演、レクなど子どもたちが1つの集団として活動できるものであり、しっかりと交流することができていた。機材や道具の準備等をもう少し綿密に相談しておくことよりスムーズに会が進行したように感じる。</p>	<p>【成果】 ・計画的に、また中身の充実を図り取り組まれていると感じる。 ・学校再編の素案が示された中、再編後の子どもたちの安心・安全なスタート、ギャップのないスタートのためにも、今後も校区連携の充実を図ってほしい。</p> <p>【課題】 ①できる限り回数を増やして欲しい。4校の小学校が天栄中学校に進学する訳ですから、その前から1つの集団となり得たら子ども達にとってもそんな良いことはない。 ②オンライン交流の機会を増やしてほしい。</p>	<p>①今後も引き続き、6年生全員での校区人権フォーラムを実施し、中学校へのスムーズな進学を目指す。</p> <p>②学校再編後の該当学年のオンライン交流や合同での社会見学を検討し、実施していきたい。</p>